

2 沿革と主な施設整備年表

京都大学大学院理学研究科附属天文台は花山天文台と飛騨天文台より構成されている。飛騨天文台は、世界第一級の高分解能をもつドームレス太陽望遠鏡、太陽磁場活動望遠鏡、東洋一のレンズをもつ 65 cm 屈折望遠鏡などを用いて観測の最前線に立ち、花山天文台は、データ解析研究センターとしての役割を担うと共に、大学院・学部学生の観測研究実習及びデータ解析研究実習を実施している。

昭和 4 年 (1929 年) 10 月	花山天文台設立
昭和 16 年 (1941 年) 7 月	生駒山太陽観測所 (奈良県生駒郡生駒山) 設立
昭和 33 年 (1958 年) 4 月	花山天文台及び生駒山太陽観測所を理学部附属天文台として官制化
昭和 35 年 (1960 年) 3 月	花山天文台に、60 cm 反射望遠鏡完成
昭和 36 年 (1961 年) 3 月	花山天文台に、現在の太陽館と 70 cm シーロスタット完成
昭和 43 年 (1968 年) 11 月	飛騨天文台設立、管理棟・本館・60 cm 反射望遠鏡ドーム完工、60 cm 反射望遠鏡を花山天文台より移設、開所式挙行政
昭和 44 年 (1969 年) 3 月	花山天文台のクック 30 cm 屈折望遠鏡を改造し、ツァイス 45 cm レンズを搭載
昭和 47 年 (1972 年) 3 月	生駒山太陽観測所閉鎖
昭和 47 年 (1972 年) 4 月	飛騨天文台に、65 cm 屈折望遠鏡及び新館完成、竣工式挙行政
昭和 54 年 (1979 年) 5 月	飛騨天文台に、ドームレス太陽望遠鏡完成、竣工式挙行政
昭和 63 年 (1988 年) 3 月	飛騨天文台ドームレス太陽望遠鏡駆動コンピューター更新
平成 3 年 (1991 年) 3 月	飛騨天文台ドームレス太陽望遠鏡塔体パネル一部修理工事完了、飛騨天文台 15 m ドーム駆動装置更新工事完了
平成 4 年 (1992 年) 3 月	飛騨天文台に、太陽フレア監視望遠鏡及びドーム完成
平成 8 年 (1996 年) 3 月	花山天文台にデジタル専用回線導入
平成 8 年 (1996 年) 11 月	飛騨天文台研究棟及び管理棟外壁等改修工事施工
平成 9 年 (1997 年) 3 月	飛騨天文台ドームレス太陽望遠鏡に高分解能太陽磁場測定装置新設
平成 10 年 (1998 年) 10 月	飛騨天文台専用道路に光ケーブル敷設工事施工 高速データ通信回線 (384 Kbps) 開通
平成 11 年 (1999 年) 3 月	花山天文台 18 cm 屈折望遠鏡に太陽 H α 単色像デジタル撮影システム完成
平成 11 年 (1999 年) 11 月	花山天文台デジタル専用回線を 128 Kbps から 1.5 Mbps に高速化、飛騨天文台研究棟・管理棟改修工事及び管理棟合併浄化槽敷設工事施工
平成 12 年 (2000 年) 9 月	飛騨天文台デジタル通信回線を 1.5 Mbps に高速化、かつ専用回線に切替え

平成 13 年 (2001 年) 3 月	飛騨天文台 65 cm 屈折望遠鏡 15 m ドームスリット等改修工事完了
平成 14 年 (2002 年) 3 月	花山天文台建物等改修工事施工
平成 15 年 (2003 年) 3 月	飛騨天文台に太陽活動総合観測システム (SMART 望遠鏡ほか) 新設
平成 15 年 (2003 年) 11 月	飛騨天文台ドームレス太陽望遠鏡塔体冷却システム改修工事完了
平成 17 年 (2005 年) 5 月	3.8m 望遠鏡開発に対し、藤原洋氏 (インターネット総合研究所代表取締役) が支援開始
平成 18 年 (2006 年) 3 月	飛騨天文台にダークファイバーと岐阜情報スーパーハイウェイを利用した高速データ通信回線 (100 Mbps) 開通
平成 18 年 (2006 年) 8 月	花山天文台にダークファイバー利用の高速データ通信回線 (1 Gbps) 開通
平成 20 年 (2008 年) 12 月	飛騨天文台研究棟耐震補強工事施工
平成 22 年 (2010 年) 3 月	フレア監視望遠鏡を飛騨天文台からイカ大学 (ペルー) へ移設
平成 25 年 (2013 年) 1 月	花山天文台が京都市の“京都を彩る建物や庭園”に選定される
平成 25 年 (2013 年) 12 月	3.8 m 望遠鏡建設の概算要求 (補正予算) 措置決定
平成 27 年 (2015 年) 1 月	3.8 m 望遠鏡用ドームの概算要求予算措置決定